

謹呈仕候時下春和候ニ
相成共處益所機埒能
可波遊法坐忍悦々至ニ
奉存候陳而去當佐領
八幡社境内ニ奉祀已レアリタル
楠神社ノ家社殿腐朽ニ
及ヒタルニ依リ假リニ白王典講
究分署内ニ安置申ニシテ
一日モ其儘難擱ニ付先年
未再建ニ計畫ヲ為シ者々
進行シ失故アリ一時中止

未再建之計畫ヲ為シ看々
進行し失故アリ一時中止
し未今般造營之計畫
漸成り既起工ニ着手ス
場合ニ相成申候者速ニ
工事ノ完成ヲ告ケ神聖
慰安し奉候様仕度微力
ナカニ専心從事罷在就
此際特ニ閣下ノ御賛同
仰キ隨テ應分し義金
御寄付被成ニ様切望
至ニ此座候月幸ニ微衷
法事納被成下ニ於テ我々
於テ無此上仕合ニ奉存候
先者右様願申上被奉候
如斯様候様候恐惶敬白

先考右後願申上後年略
如斯以坐決恐惶敬白

明治三十六年三月廿七日

納富利邦

石丸忠英

橫尾純喬

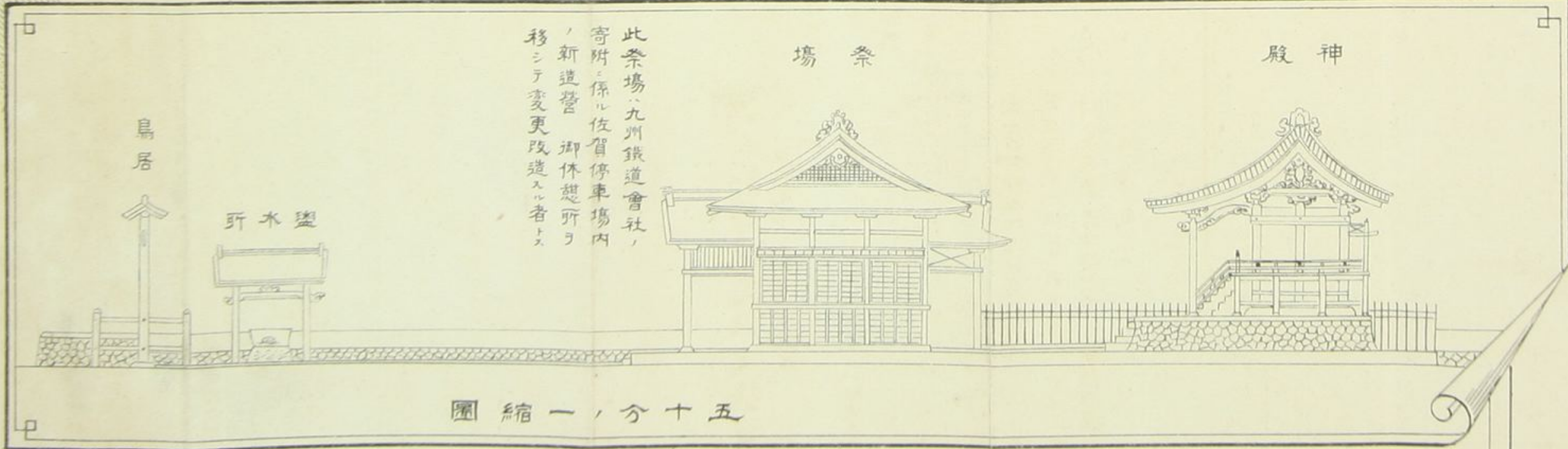
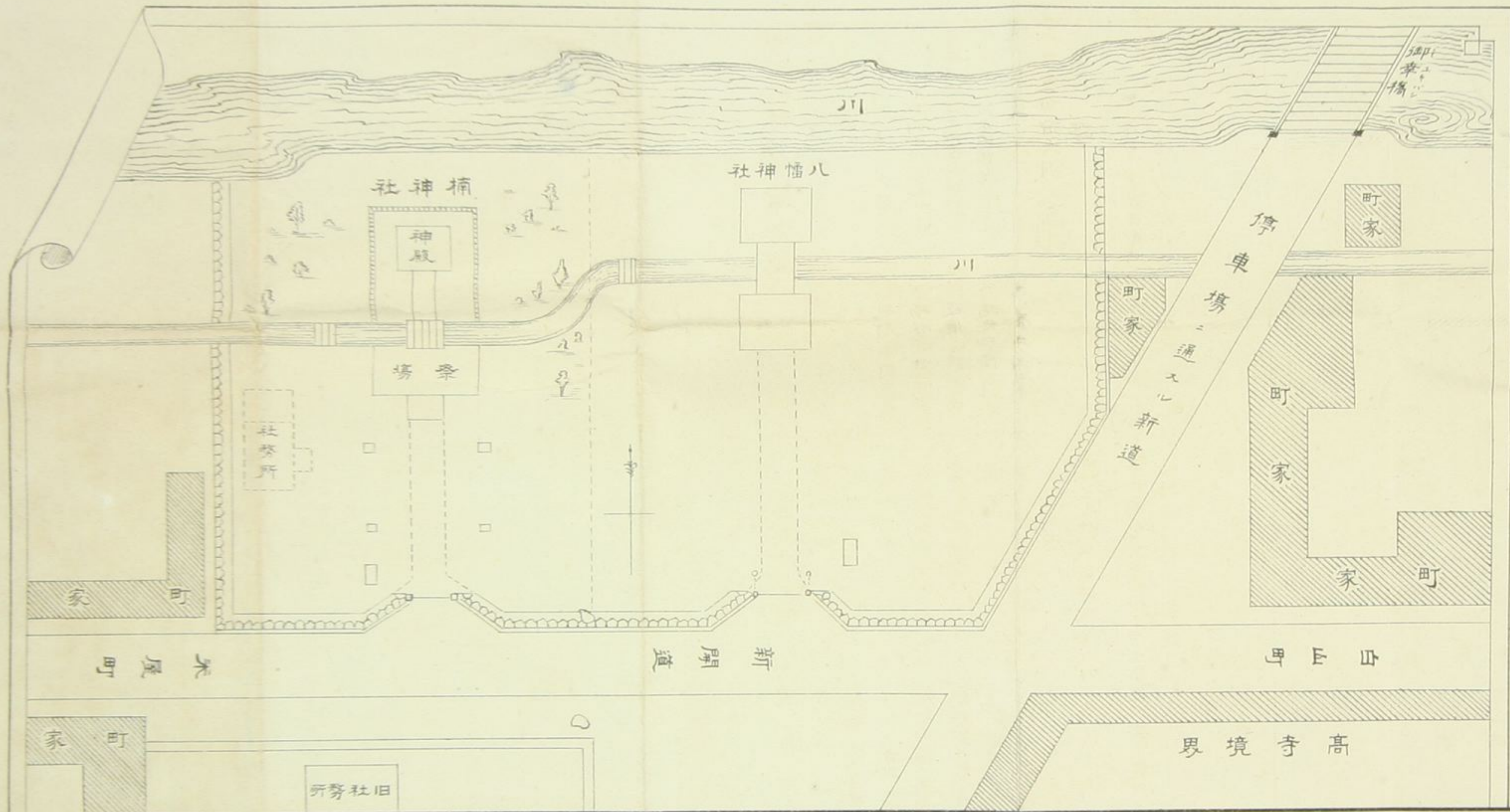
鍋島克一

伯爵大隈重信殿

閣下

追申本文之次第、付本縣人士
一般、別紙、通廣告書、其後、
呈狀金、集方集中、以坐決、就、
社殿、系、境内、略圖、及、工費、豫
算、概、畧、等、別紙、揭載、
通、以坐決、百高、覽、以、供、在、為、
右一葉、呈上之仕候也

楠神社新造營略圖



此祭場、九州鐵道會社、
寄附、係ル佐賀停車場内、
新造營、御休憩所ヲ
移シテ変更改造スル者ナリ

圖縮一、分十五

印并麻町屋勢伊留伏

楠神社建築工費豫算		既着手	
金壹千參百八拾八円九拾七銭九厘	内譯	金七拾壹円。五銭	盟水所
金五百九拾七円六拾銭	神殿新築請負費	金五百円	木鳥居
金貳百七拾四円七拾參銭六厘	祭場移轉請負費	金五百拾円	簾幕其他祭具新調費
金參百四拾七円參拾四銭九厘	神殿地形請負費	金貳百五拾円	神休并合龍修繕費
金壹百七拾參円貳拾九銭四厘	祭場地形請負費	金貳百貳拾五円	社地周圍柵植木
同上	未着手工費	金百円	社務所移轉修繕費
金九百四拾六円。五銭	内譯	金五拾円	遷宮費
		金五拾円	諸費
		金五拾円	豫備費
		合計金貳千參百參拾五円。貳銭九厘	

寄附金収支決算	
自明治二十四年	至同二十五年
金八百。貳円參拾壹銭壹厘	收入高
金五拾八円參拾九銭七厘	郵便其他諸費仕掛高
差引	
殘金七百四拾參円九拾壹銭四厘	
右明治二十五年八月十七日、内庫貯入	
自明治二十五年八月七日	至同二十五年十二月
金七百四拾參円九拾壹銭四厘	元金
金五百。貳円七拾九銭貳厘	利子
計金千貳百四拾六円七拾銭六厘	
右現在金	

備考 工費豫算金貳千參百參拾五円。貳銭九厘ト現在金千貳百四拾六円七拾銭六厘ト對照スレバ、
金千。八拾八円參拾七銭參厘、不足ヲ生スルヲ以テ此際有志諸君、義捐ヲ仰ク所以ナリ

楠神社再建廣告

嗚呼夫其人ノ名ヲ聽テ之ヲ追慕スルノ切ナルハ其人ニ就テ親炙スルノ切ナルニ如カサルナリ是後世祠堂肖像ノ興ル所以シ乎忠アリ孝アルノ人ヲ崇メテ人ノ鏡ニ備フヘシ皇國無双ノ名將忠孝ノ勇士楠河内守正成同帶刀正行兩公ノ像ヲ彫刻シ志アルノ人ニ拜觀セシメ以テ忠孝ノ心ヲ興起セシメント又攝州兵庫ノ塚ヲ見レハ上ニ草木ヲ封植アルノミ是世ニ精忠至孝ノ人ナキカ故ナリトハ舊佐賀藩士深江平兵衛人道信溪楠公父子訣別ノ像ヲ彫刻スル趣意書中ノ骨子ナリ蓋信溪之ヲ其友大木英鐵(大木伯爵ノ祖)及ヒ僧眞阿ニ謀ルニ二氏之ヲ贊成ス尙ホ從四位鍋島光茂朝臣深ク之ヲ嘉賞セラレ其資ヲ賜ヒ公孫太夫士庶人亦各其資ヲ助ク信溪自ラ京師ニ入り父子ノ像ヲ彫刻シ楠正氏及志貴和田恩地湯淺等軍ニ徇ヒ或ハ孤ヲ托セラル、者六人ヲ龜ノ左右扉ニ畫キ北原永明寺ニ安置シ自ラ香花ヲ供シテ其靈ヲ慰メ世ノ士氣ヲ獎勵セシハ實ニ寛文三年五月二十五日ニシテ水戸中納言光國卿湊川ノ建碑ヨリ廿九年前ノ美譽ナリ世變リ時移リテ其像本庄村高傳寺ノ山門上ニ在リト雖モ人其所在ヲ知ラサルニ至ル文化十三年大塚長嶺嘉村穗藏山領利昌之ヲ再興シ西河内梅林庵ニ安置シ嘉永三年藩學教授枝吉經種(副島伯爵ノ實兄)之カ音唱者トナリ義祭同盟會ヲ起シ國老鍋島直高鍋島茂眞及ヒ副島大木大隈伯爵等勤王ノ諸士相會同シテ每次祭典ヲ舉行セシハ之ガ名簿ニ炳然タリ然レトモ同盟ノ士多クハ鬼籍ニ上リ或ハ屍ヲ原上ニ暴ラシ或ハ雲上ニ斑シテ故山坂臥ノ期ナク終ニ義祭ノ名存シテ其實ナキニ至ル明治維新ノ始メ朝廷主トシテ湊川神社ヲ創建シ之ヲ別格官幣社ニ列シ堂宇ノ壯祭祀ノ盛實ニ世道ヲ維持シ人心ヲ振作スト云フヘシ續テ四條暖神社亦別格官幣社ニ併列セラル嗚呼信溪カ天下ニ先チ之ヲ彫刻シタル亦心始メテ二百年ノ後ニ赫々タリ信溪以テ嘆スベシ雖然觀感ノ功豈ニ官祭ノミニシテ可ナランヤ況ヤ其尊像儼然トシテ此佐賀ニ鎮坐アルニ於テオヤ而シテ安政三年鍋島正二位卿ノ内命ヲ奉シ選坐セシ龍造寺八幡宮ノ本地堂ハ瓦落ケ雨漏リテ之ヲ修繕スル期ナク終ニ尊像ヲ腐朽セシメントスルニ至ル故ニ佐賀皇典講求分所内ヲ假殿トシテ漸ク之ヲ安置スルノ明治十八年公五百五十年ノ大祭ニ該リ宇都宮泰玄等四方ニ奔走シテ有志者ニ謀リ社殿ヲ造營シ祭典ヲ舉行センコトヲ主唱シ故佐賀縣令鎌田景弼大ニ之ヲ贊成シ殊ニ鍋島侯爵金貳百圓ヲ賜フ小城蓮池鹿島子爵及鍋島家ノ親族並ニ地方有志者亦各應分ノ資ヲ投セララル故ニ龍造寺八幡宮ノ西隣ニ社地數歩ヲ購求シ社務所ヲ建設シ己ニ神殿ヲ造營ニ着手セントスルニ際シ事故テハ終ニ中止ノ不幸ニ遭遇スル今チ距ル己ニ六年故ニ社地ハ荒蕪トナリ木材亦タ腐朽セントス今ヤ漸ク時來リテ在京貴顯及ヒ佐賀縣知事樺山資雄ノ贊成ヲ得前業ヲ繼續シテ之ヲ再建スルノ設計ヲナスニ至ル希クハ忠君愛國ノ有志諸君應分ノ義財ヲ投シ社殿造營ノ美果ヲ收メ不朽保存ノ方法ヲ建テ以テ兩公ノ尊靈ヲ慰メ且信溪外諸先輩ノ遺志ヲ繼キ益々 皇基ノ尊榮ヲ萬古ニ保全シ秉彝好德ノ淳風ヲ千載ノ下ニ維持セラレンコトヲ

明治廿四年一月

發起人

○ノ分ハ死亡

- 松井 通昭 宇都宮泰玄 田中 坤六 小官山弘道 齊藤 重高 荒木 卓爾
- 柏倉 一徳 田中 清輔 ○松尾 芳道 相良 宗藏 古川 龍張 野田 常貞
- 田中 馨治 江副 靖臣 石井 翼 古賀善兵衛 ○伊丹文右工門 横尾 純喬
- 花房 重治 松永彌三郎 阿部卯太郎 深江 種光 ○石丸 源作 川浪 實充

附言

右廣告ハ明治二十四年一月ニ於テ發起人一同ヨリ發表シタル楠神社再建ノ趣旨ニシテ當時有志諸君ノ贊同ヲ得義捐金ノ集マルモノ少シトセス隨テ諸般ノ計畫ヲ定メテ工事ニ着手セントスルニ當リ故アリテ一時中止セサルヲ得サルノ一大不幸ニ遭遇シ爾來在再空シク十有餘年ノ歲月ヲ經過スルニ至リシハ發起人一同ノ深ク遺憾トスル所ニシテ其責務ヲ全フサルヲ得サルノ点ニ於テ贊同諸君ニ對シ實ニ愧悚ニ堪ヘサルナリ然レトモ此ノ事ダルヤ一蹶蹟ノ爲メニ廢止スヘキモノニ非ラス必ラスヤ萬艱ヲ凌キテ素志ヲ貫徹セサルヘカラス幸ヒニ去歲夏秋ノ交ニ當リテ好機到來セリ是ヲ以テ前發起人ノ補缺トシテ更ニ左ノ人々ヲ發起人ニ加ヘ急ニ再舉ヲ謀リ協議數回漸ク實行ノ緒ニ就キ營造ノ設計既ニ成リ方サニ工事ニ着手シ本年四月ヲ以テ竣功ヲ期セントス只タ憾ムラクハ資力限リアリ而シテ營造ノ工費多額ニ上リ其ノ完成ヲ告クルコト實ニ困難ナリトス此際ニ於テ大方諸君神社再建ノ趣旨ヲ翼賛シ發起人一同ノ徵衷ヲ諒セラレ奮テ義金ヲ捐セラレンコトヲ切望シテ止マサルナリ

明治二十六年一月

發起人

- 長谷川良才 石丸 忠英
- 納富 勝利 一邦 納富 介次郎 鍋島 克一

一 寄附金取扱所佐賀市水ヶ江町第百六銀行
 一 寄附金領收證ハ各發起人又ハ前記銀行ヨリ之ヲ交付シ其姓名ハ集録シテ永ク神庫ニ收ムヘシ
 一 寄附金申込期限四月三十日迄トス
 一 寄附金申込期限四月三十日迄トス
 裏面ニ資産ノ決算營造工費ノ豫算及社殿境内等ノ略圖掲ケテ大方諸君ノ參考ニ供ス

東京早稲田

伯爵大隈重信殿

浩親展





佐賀縣佐賀市

納富利邦
鍋島克一